

この時間は、書き込みする力をのばすことを目標に取り組んだ。
文の言葉ひとつひとつからイメージを感じ取ること、また、前後の叙述の関連からその言葉のイメージをより鮮明にしていくことをねらった。

T この言葉からごんのこんな気持ちがうかぶなあ、というところをできるだけたくさん見つけていく勉強です。

兵十がいなくなると、ごんは、びよいと草の中から飛び出して
びくのそばへかけ付けました。

T はい、この中でいくつ見つけられる？

C (2つ、1つなど)

洋志 びよいと

朝子 びくのそばへかけ付けました。

T その中の特にどれ？

朝子「かけ付けました。」

宏 飛びだして

T のっさりじゃなくて、びよいとなのはどうしてでしょう。

かけ付けました。のろのろじゃなくて。

C はよういきたい

C はよういかな見つかる

T ほど、そこにごんの気持ちが感じられるでしょう。

どんな気持ちが感じられる？

みんなで出してごらん

智昭 早く行かないと、見つかってつかまってしまう。

T どの言葉？ (びよいと飛び出して)

治武 兵十がいくまで、いたずらがしようてたらんかったさかいに

すぐいかった

T ほれ、またちがうこといわったね。なんていわった？ (龍法に)

龍法 いたずらがしたかった。

T いたずらかしたかったんやね。ずっと待ってて。だから飛び出した。

宏 二、三日いたずらをしていないから、早くいたずらをしたい。

T こんなふうに見つかるね。

——中略——

ごんは、びくの中の魚をつかみ出しては、はりきりあみのかかっている所より下手の川の中をめがけて、ぼんぼん投げこみました。

T はい、この中でやったらどこに線を引く？

C ぼんぼん

T ぼんぼん投げ込みました。

宏 久しぶりやし、うれしいで、ぼんぼん投げるの。

朝子 川の中めがけて。

T 「ぼんぼん」やぞ。ぼんぼん投げこみました、ていうのは、どんな

感じが浮かんでくるかね。

ぼつり、ぼーん、じゃないね。ぼんぼん。

直也 はよう投げる。

宏 一つ投げたらまた投げる

T みんな考えて。こういうことが大事なのね。ただ投げこみましたじゃなくて、わざわざ「ぼんぼん」て書いてあるのは、ここで、どんなごんの顔がうかんでくるかね。どんな気分がうかんでくるかね。

直也 あのな、にっこり

祐子 ぼんぼんというのは、ごんはうれしくて、なんか、両手にかかえられるくらいたくさん持ってなげてる。

T ほう、……龍法君は、

龍法 あのな、はよう、みつからんように。

T みつからんように？

直也 いや、ちがう。……わからんけど。

智将 なんか、ほんな、見つかる見つからんの話じゃなくて、うれしいから、次から次へぼんぼん投げてる

T 二つ出てきているね。みんな、どうでしょう。

早くしないと、兵十に見つかるから、という感じなのか、

うれしくて、そんな見つかるとかみつからんとかじゃなくて、ただおもしろがっているのか。

大裕 初めてやし、はようやった方がおもしろい。

T 政義君は？

政義 (聞き取れない) ……おもしろがって。

C ……

T みんなぼんぼんで、どんな時に使う？

直也 ボールが弾むとき。

T 音もあるし、それから、物を売る時、ぼんぼんと次々に売れるときにも使うし、……それからぼんぼん文句を言うというのもあるね
さあ、この時、兵十を気にしていたか、どうかとい問題は、残しておきましょうね。

中略

いちばんしまいに、……ごんは。じれったくなって、頭をびくの中につっこんで、うなぎの頭を口にくわえました。

T ここでだったら、どう？

C ぬるぬるとすべりぬける

政義 じれったくなって、

T はい、「じれったくなって」に線を引いた人(何人もいる。)

じれったくなる、てどういうことですか。

直也 あのな、せっかくの、久しぶりのいたずらやのにな。

T お、今直也、おもしろいこといったぞ。

直也 せっかくの久しぶりのいたずらやのにな、いらいらしてくる、

ていうかな、久しぶりやさかい、なんか……

T はい、ここでのいらいら、じれったくなるごん気分をもう少し出して下さい。

今、直也はすごいこと言ったよ。

優子 直也君とよく似ていて、久しぶりのいたずらやし、さつきもす

ごくうれしかったから、

T また、おもしろいこと言った。さつきまではうれしかった……

由美子 最初は、ぼんぼんと、切れ目がなく投げこんでいたのに、

その魚だけ、手からすべりぬけてつかめない。

T 今の、わかる？これ（「ぼんぼん」）だからこうなる。（じれっ
たくなる。）……はいわかってきた人。
有香 さつきまでは、手でにぎってぼんぼんと投げられたけど、うな
ぎは、ぬるぬるすべるから、手でにぎっては、投げられないからじ
れったくなる。

智将 うなぎも同じ魚なのに、うなぎだけつるつるすべって、じれっ
たくなる。

T なんで、ここでじれったいのか、というのを、ここだけ見てちや
だめなのね。その前も見ないと。

直也 うなぎがぬるぬるしてつかめへんの

T 悟司、なんていわった

悟司 うなぎがつるつるしてつかめへん。

T ぬるぬるしてつかめへんからじれったいのね。で、その前もぬ
るぬるした魚ばかりつかんでたんじゃないね。それまでは、どう
だったかというと、ふなどかつかんで、ぼんぼんと気持ちよく投げ
てたのに、こいつになつたら気持ちよくいかないからじれったくな
る。それから、直也君が最初に言いましたね。久しぶりのいたず
らやのに、て。もういっぺん言って。

直也 久しぶりのいたずらやのに、ぬるぬるしてつかめへんで、ほや
し、ほの、なんか機嫌がわるくなる。

智将 1日に何回もいたずらやって1回ミスするぐらいやったらい
いけど、3日間していなくて、久しぶりにやっていたはずなのにミ
スをした。

T こんなふうには言葉はつながってるんですね。

「頭をびくの中につっこんで、うなぎの頭を口にくわえました。」
さあ、このあたり、みんな、どうでしょうね。兵十のこと頭にあっ
たかねえ。

C 入ってへん。

大裕 うれしいさかい入ってへん。

T どうですか。この時兵十のこと頭にあったと思う人（なし。）

兵十のことなんか頭になかった、いう人（多数）
どうしてそう思う？

公美 うなぎがぬるぬるすべりぬけてたから、もう、初めはぼんぼん
投げこんでたとき、兵十のことが入ってたんやけど、じれったくな
ってからは、兵十のことが頭に入らなかった。

和樹 じれったくなつてたから、兵十のことなんか頭になかったと思
う

政義 兵十のことなんか、すっかりわすれてしまつてた。

優子 魚を川を投げ込んでいた時は、少しだけ兵十のことを忘れてい
たけど、太いうなぎをつかんで、じれったくなつたときは、もつ
と兵十のことわすれてる。

T どんどんこっちの方へ引き込まれている。

勝仁 なんも、兵十のことなんか、ちっとも考えてない。

宏 ぜんぜんつかめへんし、うなぎのことが気になつて兵十のことわ
すれてる。

T と、みんなは、言う。そのことは、ちゃんと文章に書いてある。
兵十のことなんか、ちっとも頭になかったということが読むと書
いてある。見つけてごらん。

C あった！

T どこを読むとわかるかな……

洋志が見つつけてるよ。どこでしょうね。……はい、洋志、どこを見つけてる？

洋志 ごんは、びっくりして飛び上がりました。

T そこや、いう人。(多数) じゃ、そのわけも言える、ていう人ない？

なつ希 とびあがるほど、びっくりしてる。

哲也 びっくりしてる。びっくりして、とびあがってる。

明代 今まで兵十のことなんか、全然頭がないほどむちゆうで、なんかやっていたから、兵十の声で、それほどびっくりした。

T うん。「うわあ、ぬすつとぎつねめ。」て言われた時にビュツとしたんね。

公美 うなぎをもっていたから、ぬすつとぎつねと思われた。

勝仁 「うわあ……」といわれた時にびっくりして飛び上がった。

和樹 心臓がとまるほどびっくりした。

朝子 兵十がどなり立てたから、びっくりした。

T そうやねえ。書いてみると、(板書)

優子 兵十が歩いている足音が聞こえるけど、びっくりして聞こえなかった

宏 どびあがるほど、びっくりしたのだから、それだけ本気になってうなぎをつかんだ。